

川越城の七不思議（後編）

前回に続いて、「川越城の七不思議」を紹介しします。

⑤よな川の小石供養

およねという娘が、城の小姓のもとに嫁ぎました。しかし、しゅうとめにいじめられたため七つ釜辺りの流れに身を投げ、夫もあとを追って身を投げました。この小川のそばを通る人が、二人を哀れに思つて小石を投げ込むと、小川の底のほうからそれに応えるように無数の泡が浮いてきます。そのため、この小川を「およね川」、後に「よな川」と呼ぶようになりました。

⑥城中蹄の音

江戸時代の初め、豪勇で有名な酒井重忠公が川越城の城主となりました。毎夜、城内に矢叫びや蹄の音が響きますので、易者に占わせると、城中にある戦の図が原因とのこと。城内にあった堀川夜討の屏風画を養寿院に寄進すると、その夜から不思議にも鎮まりました。

⑦天神洗足の井水

川越城築城の際、太田道灌が堀の水源を探していたところ、初雁の杉近くの井水を使っていた老人が、満々と水をたたえた水源地を教えてくださいました。そのおかげで道灌は、難攻不落といわれた川越城を築くことができました。後にその老人は三芳野天神の化身だとわかり、道灌はこの井水を大切にしました。



天神洗足の井水があったといわれている三芳野神社

川越城の七不思議は、市が発行した「川越の伝説」に詳しく書かれています。

世界の国から、こんにちは！



タンザニア／モエムバ・アバシ・カムウエさん

タンザニアの政治・経済の中心地であるダル・エス・サラームから、経済学の修士号を取るために来ました。タンザニアでは、統計関係の政府機関で働いていました。首都はドドマですが、ダル・エス・サラームのほうが、大きな建物が多くあり、発展しています。タンザニアから日本までは、飛行機を乗り継いで18時間かかります。

タンザニアでも稲作が行われています。タンザニアの米はパラパラしています。私は、温めたココナッツミルクの中に米を入れておじやのように食べるのが好きです。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは15ページ、相談は23ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

どんぐり

編集後記

「キュウシヨク」と聞いてどんな漢字が思いつくでしょうか。「給食」「求職」「休職」……。漢字には、同じ読み方でもさまざまな意味があります▶広報室では視覚障害者の皆さんのために、「声の広報」「点字広報」を発行しています。声や一般的に使われている点字では漢字が使えません。目で見れば何でもない文章も、声や点字だと意味の違う文章になってしまうことも。声と点字の広報制作に携わり2年。視覚障害者の皆さんに、どうしたら正しく伝えることができるか、ことばの難しさに試行錯誤が続きます▶ふだん見逃してしまいがちな町なかのマーク。でもそれぞれ重要な意味があります。12月は師走。ふだん以上に忙しい時期ですが、国際障害者デー・障害者週間を機会に、思いやりの心を持って過ごしたいと思います。